

くまびょう

137号

NEWS

くまびょう
NEWS2008年
11月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

11月1日から病院敷地内が全て禁煙となりました。

喫煙が健康に及ぼす影響は大きく、肺がんをはじめとする多くのがん、脳卒中、心筋梗塞等の循環器疾患など様々な病気を引き起こす重大なひとつの因子と指摘されています。また、たばこを吸わない家族や周辺の人にも、喫煙者と同じように健康に悪影響を及ぼします。そのため、平成15年5月に健康増進法が制定され、多くの人を利用する社会的、公共的施設では施設利用者に対し受動喫煙防止策を取るよう義務付けられました。

当院においても、喫煙場所を指定した施設内禁煙などの対策を講じて、受動喫煙の防止に努めてまいりましたが、病院は何よりも健康を考えなければならない

社会的施設であり、皆様の健康を守るという社会的使命から、この度、病院敷地内を全面禁煙とすることに致しました（敷地内とは、建物のみならず、駐車場を含め病院敷地全体を示します）。

この措置は、患者様のみならずご家族及びお見舞いの方々、来院者、病院職員全ての方が対象となります。ご理解とご協力をお願い致します。

なお、これにともない呼吸器内科で禁煙外来を開くことになりました。禁煙指導を保険診療で行いますので、ご希望の方がいらっしゃいましたらご紹介頂ければ幸いに存じます。

(副院長 河野 文夫)

禁煙外来の開設に関して

当院は平成20年11月1日より病院敷地内禁煙となります。それに伴い当院呼吸器内科にて禁煙外来を開設致します。

対象者：禁煙を強く意志される外来患者様（紹介状が必要です）

日時：初回 平日月曜・金曜の午後3時～5時（2名：完全予約制です）

2回目以降 呼吸器内科外来での一般予約（2週間毎に12週間内服の予定）

場所：内科外来5番（呼吸器内科外来ブース）

治療内容：チャンピックス（バレニクレン）による内服治療

(禁煙プロジェクトチーム 呼吸器内科医長 柏原 光介)

国立病院機構熊本医療センターは

- 1、最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
- 2、人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
- 3、教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
- 4、国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
- 5、健全経営に努め、医療環境の向上を図ります





「ほどほど医療」と「ほのぼの医療」



益城なかぞのクリニック
院長 中園 光一

益城町で内科医院を開業して5年になります。開業してわかったのですが、開業医の守備範囲は広いです。呼吸器・循環器・消化器などの内科疾患はもちろん、皮膚の病気、精神的訴え、婦人科なの？などなど、患者さんはさまざまな訴えをもって来られます。そして最近は何かが広いだけでは十分ではなく、個々の疾患に対してしっかりと知識が求め

られます。新しい知見がどんどん明らかになり疾患概念や治療法が変わってきてボーとしているとたちまち取り残されてしまいます。

また新しくて高価な医療機器も診断に必須になってきており、聴診器しかない当クリニックはちょっと大変です。その上社会が医療に求めるレベルもだんだん高度なものになり、すべての患者さんが最高の医療を受けたいと願っています。

困った・こまった、私たちのような診療所はどのような医療活動をすればよいのかと頭を悩ませます。そこで思いついたのが「ほどほど医療」です。

100点を目指すのではなく及第点よりちょっと上を心がけます。でも落第は許されません。そのためには出席日数をしっかりと確保しないといけません。そうすると、地域の患者さんを継続して診ていき変化を早目にキャッチするという、先輩方がされておられる王道？にたどりつきました。そして私たちのクリニックで不足している点数は熊本医療センターの先生方のお力で加えていただき、100点満点にしていればと勝手にお願いする所存です。

この上は「ほどほど医療」を行いつつ患者さんが和める「ほのぼの診療」へと進化？変化？できればと思っています。

10月1日 ナースキャップを廃止しました

看護師は、看護学校に入り一定期間経過すると、新たな決意をもって看護を職業として選ぶひとつの区切りとして『戴帽式』を経験します。看護学生にとって、看護の先輩である教員より純白のキャップを戴くことは、憧れでした。

そこで、看護師のユニフォームの歴史を紐解いてみると、ナイチンゲールが1854年にクリミア戦争に出発するときのユニフォームには、白いキャップが看護師の頭に載っていたという記事を見つけました。それ以降、ユニフォームのデザインは時代とともに変遷がありますが、その間ずっと看護師の頭にはキャップが載っていました。

しかし、ここ10年くらいでしょうか、感染管理や看護行為の妨げになるなどの理由でナースキャップの廃止を行っている病院が増えて参りました。当院でもナースキャップの意味や機能性などの検討結果、10月1日よりナースキャップを廃止致しました。廃止後は、他

職種と区別がつきやすいように名札の色をピンク色に変更しました。また、患者さんへは「看護師の〇〇です」と自己紹介のなかで職種を伝えるようにしています。ナースキャップがなくても専門職としての自覚を高め、確かな看護技術でこれからも安心できる看護の提供に努めて参ります。（看護部長 石橋 薫）



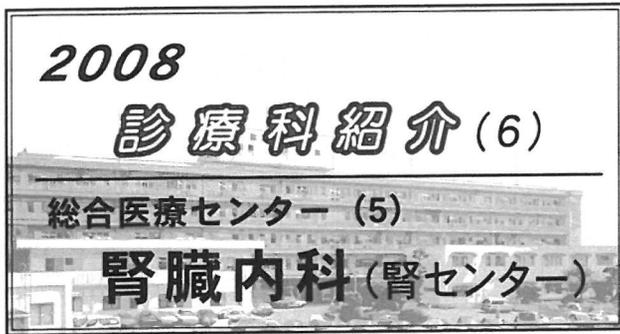
国立病院機構熊本医療センター
看護部



看護部長
いしばし かのる
石橋 薫

ISHIBASHI KAORU

新しい名札



宮中 敬
腎臓内科一般、内科一般
日本内科学会認定医
日本透析医学会専門医

診療内容と特色

腎臓内科は蛋白尿・血尿、急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎不全、慢性腎不全、透析療法、ブラッドアクセスインターベンション、水・電解質異常等について診療しています。

腎センター（透析室）は、平成14年2月4日より新築・移転して透析ベッド数が6床から10床へ増床され、年々増加する透析患者に対応可能です。

当院は独立行政法人国立病院機構の全国ネットワーク（腎ネット）に参加して、難治性腎疾患の治療の向上に寄与しております。

急性病態については一貫した「断らない救急医療の」方針で対応し、慢性病態に対しては病診連携、病病連携を通して地域完結型医療を展開しております。

また当院は日本腎臓学会研修施設・日本透析医学会の教育関連施設、透析療法従事職員研修実習指定病院として認定され、後進の指導・育成にも精力的に取り組んでおります

研究実績

腎ネットの多施設共同研究に参加し、腎病理データベース作成、臨床評価指数およびデータベース作成等に取り組んでおります。



富田 正郎
腎臓内科一般、内科一般
日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会指導医
日本腎臓学会専門医
日本腎臓学会指導医
日本透析医学会専門医
日本救急医学会専門医
日本糖尿病学会専門医
外国医師臨床修練指導医
熊本大学医学部臨床教授

診療実績

平成19年度実績

【透析】

血液透析	3,744件
新規導入透析患者数	61名
急性腎不全透析件数	47件

【その他の血液浄化】

持続的血液濾過透析(CHDF)	385回
LDL吸着療法	10回
血漿交換治療(PE)	27回
エンドトキシン吸着治療	15回

【ブラッドアクセス】

シャント手術	85例
経皮的シャント血管拡張術	8例

【腎炎・ネフローゼ症候群】

腎生検	11件
-----	-----

ご案内

当院は精神神経科、形成外科、心臓血管外科、歯科等も含むすべての診療科を備えているため、あらゆる合併症を持つ透析患者や腎疾患患者の治療の受け入れが可能です。また「断らない救急医療」の体制をとり、いつでも患者様の受け入れが可能です。

腎臓内科定時外来は月曜から金曜まで毎日午前9時30分より12時まで。定時透析業務は休日、年末年始に関わらず月曜から土曜日まで午前8時30分から終了するまで。救急患者は365日、24時間体制で対応させて頂いております。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

最近のトピックス

心腎相関(Cardio Renal Syndrome)



心臓血管センター
循環器科医長

宮尾 雄治

我が国において、急速に進む高齢化とともに、糖尿病や高血圧症の増加、生活習慣の欧米化などの多くの因子の関与により「心血管病」は増加傾向にあります。米国心臓病協会（AHA）が2003年のステートメントにて「腎臓病が心血管病の進展リスク」と注意喚起を行いました。その後も慢性腎臓病（CKD：chronic kidney disease）の概念の普及とともに心血管病の新たなリスク因子としての腎障害との関連が多くの論文により報告されるようになってきました。図1はカリフォルニアの住民検診112万人の成人を対象とした平均観察期間2.84年でのコホート研究です。冠動脈疾患、虚血性脳卒中、末梢血管疾患による入院を心血管イベントとするとそのイベント頻度は推算GFR（eGFR）値に反比例する形で増加していることがわかります。日本では久山町研究にて40歳以上の住民2,643名の12年間の追跡調査にて、CKDがあれば男性では冠動脈疾患リスクが2.26倍（女性は1.62倍）になることが報告されています。そこで心疾患のなかで心不全症例の視

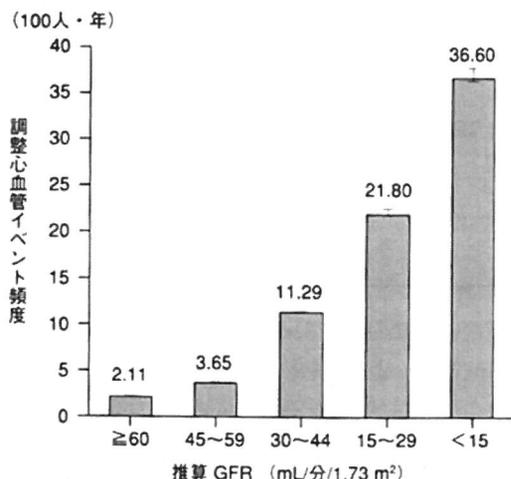


図1 Go AS, et al. N Engl J Med, 351:1296-305, 2004より

点からは、CKDとどのような関連性があるかを当院での症例を元に検討してみました。平成15年4月から16年9月までに当科に心不全にて入院した206例のうち、外来にて12ヶ月以上followし、血圧および血清Crが3回以上測定できた65例を対象としました。退院時のeGFR（ml/分）にてHG群（eGFR≥60）26例とLG群（eGFR<60）39例に分ければ、LG群にて収縮期血圧は有意に高く、また糖尿病、高脂血症例が有意に多いことがわかります（表1）。またHG群26例のうち、平均37ヶ月のfollow upの後、eGFRが60以上を維持できた症例が14例ありました。そこで心不全患者ではeGFRを維持するためには何が最も関与するかを検討してみました。年齢、性別、血圧値（収縮期、拡張期）、前eGFR値、糖尿病、高血圧症、高脂血症、喫煙、LVEF、CRPを説明変数として回帰分析を行いますとLVEFのみ有意な説明変数となりました(p=0.02)。以前より、心不全患者では年齢などとともにLVEFが最も予後に関与する因子とされており、腎障害の進展と関連して予後を悪化させていることが想定されます。冠動脈疾患や心不全などの心疾患を診察するにあたり、今後はCKDの概念を念頭において、先に示した高血圧症、糖尿病、高脂血症などとともに生活習慣の改善、食事指導など集学的治療が必要となってくると考えられます。上記のような多くの疾患を合併した症例もそうですが、さらに重要なことは、病初期もしくは発症前の状況から管理を考えることが重要と思われれます。当院の特徴の1つは、それぞれの専門医がいる総合病院であるということであり、この点を活かして治療を行っていきたいと思います。

表1

	HG群(26例)	LG群(39例)	P値
収縮期血圧, mmHg	117.0±18.2	130.0±19.7	<0.01
拡張期血圧, mmHg	65.8±10.7	69.2±12.1	N.S.
高血圧ガイドライン達成例, %	80.8	61.5	0.09
糖尿病, %	19.2	43.6	<0.05
喫煙, %	23.1	35.9	N.S.
高脂血症, %	15.4	38.5	<0.05
LVEF, %	57.9±15.3	58.9±13.7	N.S.
CRP, mg/dl	0.22±0.37	0.23±0.30	N.S.

脳死下臓器提供の模擬訓練報告



脳神経センター
脳神経外科医長

大塚 忠弘

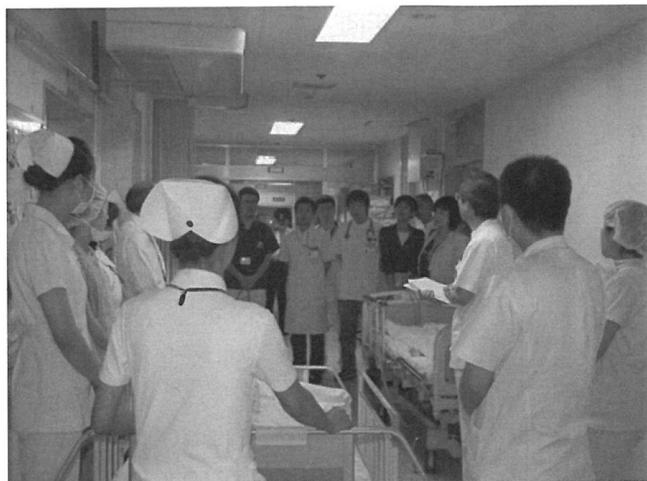
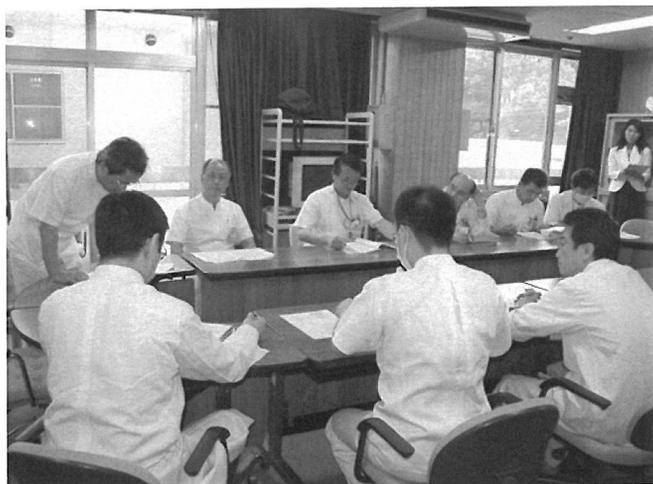
当院では平成17年6月および平成20年7月の計2回にわたり脳死下臓器提供のシミュレーションが実施されました。特に本年度実施分については院外から多数の参加者を迎え、日本臓器移植ネットワーク（九州支部）および熊本県からそれぞれ移植コーディネータが、また、打診した所轄警察署からは交通課や刑事課署員も参加頂きました。更に、地域住民による理解を深めてもらうためにマスコミにも公開しました。参加者の配役など詳細に作成されたシナリオに沿って、通常勤務中のスタッフを中心に総勢約50名の参加者により平日の午後2時～午後5時まで約3時間かけて実施されました。

具体的には、30歳女性が乗用車運転中にくも膜下出血を生じ激突事故を発生した、とする状況設定で、救急救命センターでの主治医による臨床的脳死診断を皮切りに、家族からの意思表示カードの提出、対策本部の立ち上げ、脳死判定委員会の召集、移植ネットワークへの模擬連絡を行いました。その後、移植コーディネータによる家族への説明と承諾、脳死判定委員会の開催、脳死判定医の選出と法的脳死判定、警察署員による模擬検視、摘出チームの到着、手術場スタッフと

の打ち合わせ、ドナーの手術場への搬入（摘出）など順を追って確認しました。また、家族やコーディネータ、摘出医の控室なども設定され、事務的なシミュレーションとしては、摘出チームの誘導や報道関係への対応など緊張をもって行われました。

「臓器の移植に関する法律」、いわゆる臓器移植法が平成9年に施行されましたが、日本臓器移植ネットワークホームページの資料では、脳死下での臓器提供事例は平成20年9月時点で75例（うち2例は国立病院機構傘下の病院から）が公表されています。熊本県下には脳死下の臓器提供施設としては、当院を含めて熊本大学附属病院および熊本赤十字病院の3施設が認定されていますがまだ臓器提供の事例はありません。当院では年間8,000件近い救急患者が搬送され、脳卒中と頭部外傷患者の入院総数年間約700名のうち70-100名の方が亡くなられています。臓器提供意思表示カードの所持率は10%前後というものの、脳死での臓器提供を希望する方（41.6%）が希望しない方（27.5%）の割合を大きく上回ることを鑑みると、臓器提供者を持つ機会は少なくないでしょう。

私を含めて今回のシミュレーション参加者の多くが問題点を理解し、また、臓器の提供についていつもより身近に感じたことと思います。模擬訓練と異なり、実際の現場は平常の診療業務の傍ら数日にも及ぶ長丁場でタフな仕事の様です。体の一部を縁なき人に提供したいと願うドナーの決意と良心に思いを馳せ、最後の意思が速やかに実行されるように機会あれば支援したいと思います。



専修医レポート



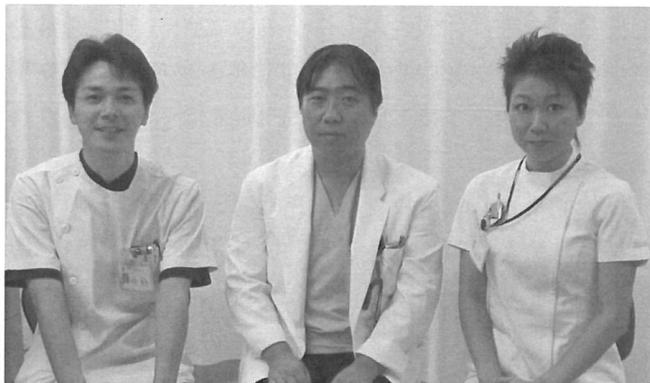
専修医
東野 哲志

鹿児島県出身、福井大学医学部を卒業し、平成18年3月より国立病院機構熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただきました。平成20年4月に聖マリアンナ大学形成外科に入局しましたが、私の希望で熊本医療センターにて引き続き後期臨床研修をさせて頂いております。

専修医となり専門性が要求される立場となりましたが、専修医の立場を利用して頂き、4月から半年間、心臓血管外科にて研修させていただきました。心臓血管外科では虚血性心疾患、弁膜症、大血管の手術および術後管理を数多く経験しました。また、閉塞性動脈硬化症や静脈瘤、透析シャントなどの末梢血管の疾病についても診断、治療を学ぶことができました。形成外科の分野は幅広く創傷治療に携わるため、下腿・足部の血行性潰瘍などでは末梢血管の知識・扱い方の習熟が必要であり、広範囲熱傷では呼吸・循環をはじめとした全身管理が特に重要となります。半年間で勉強できたことは多くはありませんが、今後も研ぎをかけ、専門である形成外科の分野で生かせたらと思っています。心臓血管外科 毛井先生をはじめ、岡本先生、片山先生の熱い指導にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

当院では救急医療が非常に活発であるため、形成外科においても顔面外傷や熱傷などのその場での処置が必要となる患者を診察する機会に恵まれています。形成外科の一般外来では、創傷の経過を最初から最後までフォローすることができ、細かい変化や治癒過程を学ぶことが可能です。外傷、熱傷では初期治療だけでなく、2次的な形成術を要することもしばしばあり、外来経過観察の大切さを感じております。このように再建外科～形成外科～美容外科（一部ですが）まで多くの症例を経験することができる病院でもあります。その点、勉強しなければいけないのが現状ですが、新しい知識と経験は何物にも換え難いと実感しています。

形成外科は当院では一番新しい診療科ですが、扱っている疾患は先天異常や腫瘍・母斑、ケロイドなども含め多岐に渡っております。扱う病変は主に体表面ですが、顔面骨骨折や末梢血管（フットケア）などの治療もしております。再建領域においては外科系診療科を中心に他科とも連携を取り医療に取り組んでいます。今後とも当院で勉学、診療に励む所存ですので、一層のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



形成外科大島医長、池山先生と

●平成21年度 専修医(後期臨床研修医)を募集します●

- 応募資格：2009年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者
 研修期間：3年間（希望により5年間）
 募集人員：内科系総合専修コース・外科系総合専修コース各若干名
 給 与：当院規定による
 宿 舎：レジデントハウス（25㎡）平成21年3月完成予定
 選考方法：書類審査、面接等
 願書締切：一次 平成20年11月21日（金） 二次 平成21年1月31日（金）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。
 〒860-0008 熊本市二の丸1-5
 国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 鶴見
 TEL096-353-6501（代）内線621 FAX096-325-2519

詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.hosp.go.jp/~knh>



研修のご案内

第227回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座 5 単位認定〕

日時▶平成20年11月8日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「認知症の診断と治療」

1. 症例呈示
2. 認知症の診断
3. 認知症の治療

座長 熊本市医師会 宮川 洗平
 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 渡邊健次郎
 国立病院機構菊池病院臨床研究部長 木村 武実
 国立病院機構菊池病院長 高松 淳一

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第86回 最新医学の知識講座（無料）

〔日本医師会生涯教育講座 5 単位認定〕

日時▶平成20年11月12日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「やさしい胸部X線写真の読影」

座長 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 吉松 俊治
 熊本大学大学院医学薬学研究部画像診断解析学教授 粟井 和夫

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第118回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座 3 単位認定〕

日時▶平成20年11月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「めまい、歩行困難を主訴に来院した53歳女性」

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科 高松孝太郎

4. ニレクチャー「新しい糖尿病薬 夜明け前のインクレチン製剤」

国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科医長 豊永 哲至

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第87回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座 3 単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成20年11月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

情報提供「胆汁排泄型持続性ARBミカルディス」 座長 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗
 特別講演「糖尿病診療の新展開—新規糖尿病治療薬への期待—」

熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学 教授 荒木 栄一先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線705

第94回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成20年11月26日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

症例検討「意識障害」

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科医長 田北 智裕
 国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘
 国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科医長 豊永 哲至

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

2008年

研修日程表

11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修ホール	教育研修棟 4階	その他
1日(土)	10:00~12:00 第1回 熊本EBMセミナー 「臨床データの解析法 -統計ソフトの使用法」		
4日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
8日(土)	15:00~18:00 第227回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 宮川 洗平 「認知症の診断と治療」 1. 症例呈示 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 渡邊健次郎 2. 認知症の診断 国立病院機構菊池病院臨床研究部長 木村 武実 3. 認知症の治療 国立病院機構菊池病院院長 高松 淳一	[日本医師会生涯教育講座 5単位認定]	
10日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
12日(水)	19:00~21:00 第86回 最新医学の知識講座 座長 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 吉松 俊治 「やさしい胸部X線写真の読影」 熊本大学大学院医学薬学研究部画像診断解析学教授 粟井 和夫	[日本医師会生涯教育講座 5単位認定]	
13日(木)	19:30~21:30 歯科領域における救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 上妻 精二 他		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)	13:30~17:00 第74回 ナースのための救急蘇生法講座《会費制》 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
17日(月)	19:00~20:30 第118回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
18日(火)	18:00~19:30 第46回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
20日(木)	19:00~20:45 第87回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
26日(水)	18:30~20:00 第94回 救急症例検討会 「意識障害」		
27日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
29日(土)	14:00~16:00 第210回 滅菌消毒法講座《会員制》 「感染症法と感染防止対策」 山口大学医学部附属病院薬剤部准教授 尾家 重治		

(会) 会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)